グロスベック・ギャレット　プロフィール

現在、ウエズリヤン大学大学院民族音楽学部博士課程に在籍。2023年9月より独立行政法人国際交流基金の日本研究フェローシップを受け、特別研究生として東京藝術大学大学院音楽研究科に在籍し日本でも研究活動を行う。Association for Asian Studies (AAS), Society for Ethnomusicology (SEM), Society for Music Theory (SMT)などの学会に所属し、Society for Ethnomusicology 学生ジャーナル “SEM Student News”の副編集長を務める。

［経歴］

1989年、アメリカ、ワイオミング州生まれ。小学生の頃よりピアノとヴァイオリン、ハープを習い始める。中学時代に日本のポピュラーカルチャーに興味を持ち、ゲーム音楽の作曲家を目指すようになる。日本の伝統芸能に初めて触れたのは、高校時代の初来日時で歌舞伎を鑑賞した。その後、作曲技法を学ぶためヴァンダービルト大学音楽学部作曲専攻に入学、大学3年時に上智大学に留学し、箏曲部に入部したことがきっかけで和楽器の素晴らしさに魅了される。

一時帰国後、2011年に再来日し、英語指導の助手を務めながら本格的に箏の個人レッスンを受けはじめる。英語指導助手を3年間務め、2年目に日本政府（文部科学省）奨学金に合格、留学生として名古屋音楽大学大学院音楽研究科（作曲専攻）に入学し、作曲と和楽器を学び修士号を取得する。

大学院修了後、2017年から2019年まで、主に国際文化交流事業を行う株式会社JFF（愛知県名古屋市）に勤務し、箏演奏をはじめ司会やスタッフとしても国際文化交流の促進に意欲をもって取り組んだ。博士課程在籍中も箏に関する活動を続けており、ハーバード大学が開催する夏期日本語講座にて箏曲を学ぶワークショップの講師を3年間担当している。

［連絡先］ggroesbeck@wesleyan.edu　　｜（080）4109-7611
ウエズリヤン大学研究者紹介ページ　https://ggroesbeck.research.wesleyan.edu/
株式会社 JFF による紹介動画 https://www.youtube.com/watch?v=xhKcecjLRuk
［最新の論文 https://scholarlypublishingcollective.org/　2023/10/1 掲載］
Government-Mandated Coolness: Education Policy, the Koto, and Music Teacher Retraining in Japan
日本政府が先導する「クール」という概念の影響 -箏を取り入れた日本の教育政策、及び音楽教師向けの和楽器教育について-